

小学校算数A (主として「知識」に関する問題)

平成29年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。四則計算、単位量当たりの大きさ、図形の性質、重さ・長さの比較などの問題の他、身近な調査をして結果を表にまとめる力を調べる問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
3.2ポイント下回っています

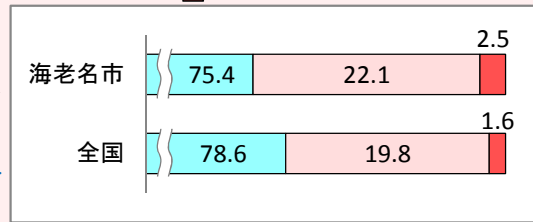
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数A	75.4	77.0	78.6	-3.2

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

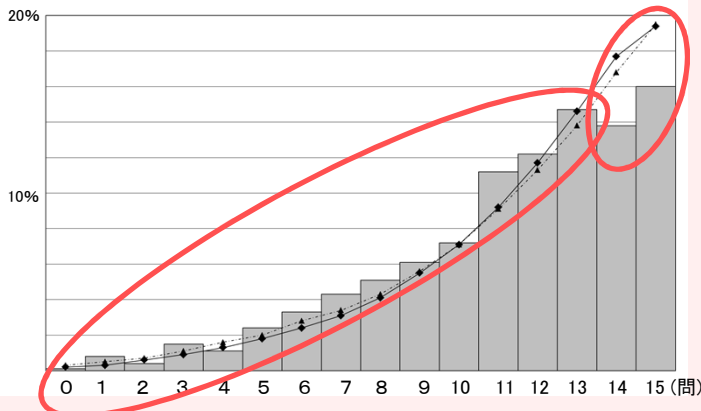


無解答率(何も書かなかった)は2.5%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が13問以下の児童が多く
14問以上の児童が極端に少ない
ことが傾向としてわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の児童の割合は
13.8%でした。(全国は10.6%)

* 正答率80%以上(12~15問)の児童の割合は
56.5%でした。(全国は63.4%)

領域別の正答率

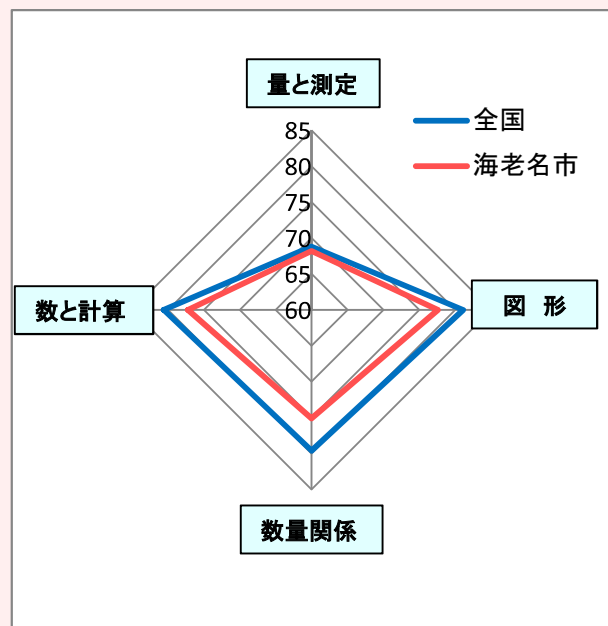
全領域において全国と比較して
下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	77.2	80.6	-3.4
量と測定	68.2	68.8	-0.6
図形	77.6	81.1	-3.5
数量関係	75.1	79.6	-4.5

* 「数と計算」「図形」については、約3.5ポイント下回っていました。

* 「数量関係」については、4.5ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った
設問

- 1m60円のリボンを0.4m買ったときの代金を求めるための数直線を書く。(+1.6)
- 小数のたし算をする。(10.3+4) (+0.4)

全国を下回った
設問

- 小数のわり算の答えを分数で表す。(5÷9) (-12.3)
- たし算・かけ算の混合計算をする。(6+0.5×2) (-10.8)
- 調査結果を表をまとめたときの合計欄にあてはまる数を書く。(-6.7)

算数Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

計算をする設問

$5 \div 9$ (商を分数で表しましょう。) (全国との比較-12.3)

$6 + 0.5 \times 2$ (全国との比較-10.8)

資料から表を作ったときの合計欄に入る数を求める設問

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、右の①の表のように記録しました。その記録を②の表にまとめます。②の表のオにあてはまる数を書きましょう。(全国との比較-6.7)

② 飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

① 飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

正答 13

○…飼っている
×…飼っていない

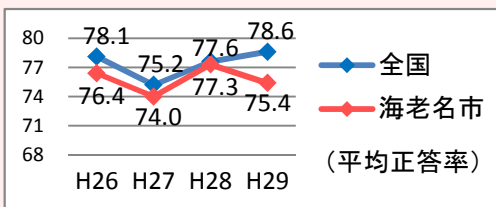
○…飼っている
×…飼っていない

☆算数Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が13問以下の児童が多く、14問以上の児童が極端に少ない傾向があることから、全領域において基礎的な力の定着を図る必要がある。
- ◆ 数と計算、数量関係の領域においては、分数の意味や四則混合計算、表の意味などの理解に大きな課題がある。
- ◆ ほとんどの設問について無解答率が全国と比べて高く、後半の設問ほどその差が大きくなっていることから、国語と同様の傾向が見られる。

これまでとの比較



- ◆ 平成26年度から全国との差が徐々に小さくなっていったが、平成29年度は差が大きく広がっている。
- ◆ 平成28年度は「量と測定」「数量関係」において全国を上回ったが、それ以外の年は全領域において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「計算力を高める」ために
 - 四則計算や小数、分数の計算を組み合わせた多様な問題をくり返し解くように指導する。
- ◆ 「知識・理解の確実な定着」のために
 - 具体物やICT教材などを活用して、実感をともなった理解ができるように指導する。